

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270700222		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームにこにこプラザみさわ		
所在地	〒033-0037 青森県三沢市まつぞの2番1号		
自己評価作成日	令和4年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念に掲げている「心のケア」(おもてなし)を頂点に、ご利用者様個々の無理のない過ごし方を工夫し、声掛けを大切に、心地よい生活環境で生活できるよう工夫しています。 ・ご家族との情報共有を図り、又、地域に根付いた事業所として、地域の協力委員、他近隣との協力共存に努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は中心街にあり、デイサービスセンターと併設されている。法人の理念は、事務所や玄関に掲示されており、夕方の申し送りや唱和しており、安心して心地よい日常生活が送れるように支援している。コロナ禍のため、外部との接触を制限せざるを得なく、デイサービスセンターの利用者とは、内線を活用しながら、馴染みの関係性を途切れさせない工夫をしている。また、街のお祭りを事業所の窓から見たり、近くのスーパーへの買い物で外出する仕組み等は継続している。他、職員とのコミュニケーションやユニット会議などで意見や要望を聴取し、運営に反映してもらう事で職員の負担も軽減されている。災害対策においても緊急連絡網に地域住民の方々も加わり、地域の協力体制も構築できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と月間目標をスタッフルームに掲示し、一日一回申し送り時唱和し、理念を共有し、日々のケアで実践できるよう取り組んでいる。	理念は開設当初から変わらず、利用者が過ごしやすく、安心して生活できるように、家族とも密に連絡を取り合っている。事務所、玄関に掲示しており、夕方の申し送りにて唱和し、共有することで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し行事等参加していたが、コロナ過により町内行事は行えていないが、施設周辺の花植え等行っている。	コロナ禍で町内行事に参加できてはいないが、学生のボランティアが来られ、利用者と交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	教育機関等の施設説明には、福祉用具・介護ロボット等の実態を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し(コロナ状況により中止の時もある)状況報告や支援内容を報告し意見を頂き、サービス向上に活かしている。	2ヵ月に1回運営推進会議を開催していたが、コロナ禍ということもあり、中止したこともあった。しかし、6月、10月に利用者代表、家族代表、町内会長、介護保険課の参加のもと開催し、意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の医療・福祉関係者等のケア会議に参加し、情報交換を行っている。又、包括支援センターや市の介護福祉課に相談する等、行政機関との連携を図っている。	市の医療・福祉関係等のケア会議が年に3回開催され、情報交換をしている。市役所より、身寄りのない方の問い合わせや、対応困難な利用者の対応を相談するなど、市町村との連携を図り、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置、会議内容は全職員で周知徹底し「拘束の無いケア」を心がけている。又、必要に応じて、福祉用具等を使用し拘束の無いケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を年に1～2回実践し、参加できなかった職員には伝達講習をしている。事業所内では、見守り支援システムを導入している。また、玄関のカギはデイサービスセンター併設ということもあり、デイサービスセンターの営業時間のみ施錠している。その他は、夜間以外は解錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置、マニュアルに沿って日々ケアを行っている。又、毎月のGH会議やユニット会議等で話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一回勉強会を実施し学んでいる。又、ご利用者様・ご家族様から相談があった際は、必要な制度が活用出来るように情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約・解約・改定等の際は、都度十分に説明を行い、不安や疑問を確認し、理解と納得を得た上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況報告の電話時、短時間での面会時(コロナ禍の為)に意見・相談等を聴き、改善策を検討し相談に柔軟に添えるよう努めている。	コロナ禍であるが、面会は、10分程度少人数で入り口で面会ができるようにしている。その際、家族からの意見を聴取している。面会簿の書式変更や、玄関入口に屋根が必要だとの情報があり、改善につなげ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員とコミュニケーションを図り、意見等を聴き上部の会議等で反映させている。又、上層部との意見交換の場を設けている。	月1回の職員会議や、日々のコミュニケーションの中で職員の声に耳を傾け、運営に反映させることで職員の負担を軽減することができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場・働きやすい環境の重要性を考え、勤務状況の把握・健康状態の把握し、軽労化等取り入れ取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時期に合わせて、介護実践教育・就業規則等説明を行い、教育段階を設け評価し育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はオンライン等で交流する機会があり、法人外は、電話等での連携を取り、情報交換を行いサービスの質の向上への取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時得た情報から不安要素を把握し迅速に対応し支援を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前のヒアリングからご家族様の応え、利用開始後の安心に向けた支援・関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始後に不安・悩みを抱える事がないように傾聴し、何かがあった場合は職員間で情報共有を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご利用者様の立場に置き換えて、安心安楽な環境を提供する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様を第一に、ご家族様の思いも組取り支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	安全を最優先に、外部との関係を構築出来るよう努めています。	以前は、併設のデイサービスセンター利用者で行き来ができたが、今は遠慮いただいているので、電話の内線を活用して会話をするなどの工夫をしている。また、馴染みの美容院へ出かけたりすることで関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から様子観察を行い、トラブルを防ぎ、入居者様間の良好な関係を築けるよう、職員が仲介し、コミュニケーションに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や入院となった場合は、必要に応じて了承を得て情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念として掲げているように、一人ひとりの個別性を重視した生活を送るように、アセスメントの段階からご利用者を主体とした支援を検討している。又、必要に応じてご家族様から情報収集を行っている。	センター方式を活用しながら個々に寄り添い、安心して生活ができるように、日常の会話の中で本人の意向を引き出し、本人本位に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らし生活環境を、ご利用所様ご家族様から情報を頂き、アセスメントシートを作成している。 援助内容や情報を共有出来るように、定期的に更新している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「本人らしい生活」を重視し残存機能を発揮できるようなケアを日々行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月に一度モニタリングを行い、ケアプランの検討をし、状態変化に合わせてケアプランの見直しを行っている。	センター方式を活用しながら、各担当職員の主担、副担がモニタリングを3ヵ月に1回実施している。ユニット会議にて、他の職員の情報をもとにケアプランの見直しや現状に即した介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に沿った実施記録と日々の変化等を詳細に記録し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・通院・外泊・入退所時の送迎等、ご利用者様、ご家族様の状況に合わせた支援やサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ状況を見ながら、地域住民やボランティアの受け入れを考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して利用している。基本ご家族様へ受診対応をお願いしているが緊急時は施設対応している。	受診は入居前からのかかりつけ医を継続した家族対応となっており、その場合は事前に家族に状況を報告し、受診先で説明して頂くよう依頼している。家族が遠方で付き添いが困難な場合は、事業所で対応し、受診後の結果を家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算Ⅰを算定している為、訪問看護ステーションと連携して24時間のれんらくたいせいとなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師と相談しながら退院時期を決めている。入院中病院からの情報提供を受けており関係が保たれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に関する指針」をもとに説明を行っている。又、身体レベルの低下が見られた場合は都度、報告と相談のきかいをもうけている。	事業所では、基本的には終末期の対応はしていない。医療ケアが必要となった場合は、入居の継続が困難であることの説明をして同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時や事故発生時のマニュアルを整備している。救急救命講習や訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練マニュアルを整備して、二ヶ月に一回夜間と日中を想定した避難訓練を行っている。又、設備点検や非常食の備蓄を行っている。	併設のデイサービスセンターとの合同訓練を年に2回実施している。地域住民参加型の避難訓練も予定していたが、コロナ禍であるため行っていない。しかし、緊急連絡網を使った連絡訓練は実施している。事業継続計画も作成しており、食料などの備蓄は5日間準備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の思いに寄り添い、一人ひとりの人格を尊重している。 ご利用者様が訴えたい事を把握し、自尊心に配慮した言葉がけで支援している。	スピーチロック、言葉の虐待の勉強会も実施している。また、一人ひとりの思いに寄り添い、人格を損ねないように配慮したコミュニケーションを心がけている。気になる場面では、その場で助言している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が思いを伝えやすい環境づくり、自己決定できるような言葉がけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活できるように、一人ひとりのペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みを尊重し、整容やおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事量・好み・時間等個人を尊重し、ゆっくりと食事を楽しんでいただけるように支援している。出来る方には、準備・片付け等も一緒に行っている。行事で季節感を感じられるメニューをていこうしている。食事量を観察し、体調の変化に気をつけるようにしている。盛り付けやお盆拭き等、ご利用者様に応じた役割を提供している。	職員との会話だけでなく、利用者同士の会話にも耳を傾け、本人の好みなどを引き出しながら、食事、行事食、おやつ作りなどに反映させている。食事の盛り付けや米とぎ、洗い物・おやつ作りを一緒に行える利用者もあり、楽しみが減らないように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を把握し、必要量が摂取できるよう支援している。 体調を考慮し無理のないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様に合わせて、義歯洗浄や一部介助・全介助の支援を行い、口腔内を観察し、情報共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに合わせ、パットの使用方法を変えたり、夜間のみオムツを使用等の取り組みを行っている。	排泄の自立支援にむけて、立位可能に近づけるための体操などを工夫しながら実施している。排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の自立にむけた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を把握し、自然排便を促すよう支援している。しょうほうされている下剤で対応する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を楽しんでいただけるように声掛けをし、着替え衣類等職員と一緒にえらんでいる。入浴拒否の場合は時間や日にち又、対応職員を変更して対応している。	1週間に2～3回の入浴を実施している。本人の意向に合わせ、午前も午後も対応している。また、浴槽内には入浴剤も入れ、リラックスできるように行っている。入浴困難や体調不良の際には、足浴や清拭にて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠や不穏で体調がすぐれないときは、休息を促したり、状態に応じて医療機関に相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れが無いよう3回の声出しチェック、確実に服用されたか見守り確認を行っている。服薬内容や副作用等の情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、喜びのある日々を過ごしていただけるように、環境づくりを工夫して取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ状況・天候・体調・ご本人様の希望・ご家族様の希望等に配慮し、支援している。過去の外出行事を参考にしながら外出行事を企画し車椅子専用車両を利用するなど、安全な外出支援に取り組んでいる。	事業所の周りを一緒に散歩したり、4月には花見・夏には海方面にドライブに出かけた。コロナ禍でも楽しみを持ってもらえるように支援している。また、個別の対応は、家族にも協力をしていただいている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理が困難な方は施設管理している。日用品や散髪代金等を預かり金からの支払いで支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも対応可能となっている。又手紙やプレゼント等が届けられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有ホールは天窓で採光が明るく、ゆったりとしている。自由に好きな場所で過ごせる。他季節管のある作品や行事の写真を飾り、心地良く過ごせる様に努めている。	食堂ホールが広く、天井も高く天窓もあり、明るくゆったりできるスペースになっている。食堂に畳があり、心地よく過ごせる空間であり、壁には、職員と一緒に作られた作品や、写真などが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席や居室以外に共有空間の中で、気の合うご利用者様同志で、思い思いに過ごせるよう、席移動やユニット間往来が自由に出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族様ご本人様と相談して、馴染みのもの(愛用品)・思い出の物・写真等持参していただき、居室内に配置している。	部屋は、本人の写真や家族との思い出、写真などが貼られており、それらを見ることで安心でき、心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力・意思決定を活かし、軽作業・余暇活動を通して、満足感や達成感を得られるよう、安全に作業ができる環境作り、声掛けを行っている。		